

この文章は、柳井谷深志先生が平成 20 年の上級コース（現：C コース）を受講する際の感想文です。遠絡医学そして遠絡療法を学んでおられる先生の心境と状況をご理解いただくために資料としてご本人の許可の下に掲載させていただきました。ご参考の一助としていただければ幸いです。

この理論なら 痛みがとれて当たり前



やないだに ふかし
柳井谷深志 児玉整形外科クリニック / 鹿児島

遠絡療法との出会いは、平成 19 年 6 月に行われた日本麻酔科学会でのペインクリニックのセッションでした。初恋または恋愛と同様、第一印象で「決めた」という感じでした。10 年間、西洋医学のペインクリニック（麻酔科）で疼痛患者の治療を行ってきましたが、最近、難治性の疼痛疾患になればなるほど漢方の力のありがたさを感じてきている状況でした。そこに更に「遠絡」という言葉を学会会場で拝見させていただき、その発表の中の「痛み」「重み」「しびれ」、或いは $A\alpha$ 、c-fiber、 $A\beta$ などの説明に、自分が痛み治療で考えていた事とほぼ同一の視点だと確信しました。

この理論ならむしろ「痛みがとれて当たり前」という気がして、学会終了後早速東洋医学の経絡について、また、インターネットで遠絡について勉強しました。学ぼうとすればするほどセミナー参加の必要性を感じ、基礎・初級・中級コースと受講しました。基礎コースを受講した時から上級コースまで学ぶつもりで、年間計画を立てて取り組んできましたので、現在はその中間地点にあるとしか思っていません。治療の効果については「効果がでて当たり前、効果がなければ自分の診断、勉強不足」といつも思いながら、外来診療で多くの患者と治療を一緒に行っている今日です。今は遠絡療法の第一歩、スタートラインに立てたことに感謝しています。

中級コースまで受講し、多くの患者様のために治療を実践してきました。中枢性の疾患については、まだまだ一過性の効果もしくは痛みの軽減にしか至らないこともしばしばです。自分の思い込みの治療理論ではなく、より深く学び、正しい理論に基づいて結果を出していくには、上級コースの受講は必須と考えています。

先に述べたように、最初から上級まで受けるつもりでいたため、上級コースの受講については初めて受講した第一印象から決めていました。この治療は患者様にとって、あるいは未病の健人に対しても、今後、人間が豊かで健康に暮らしていくために非常に役立つものと考えています。

今後は「より多くの患者様のためになりたい」、まずはそれからと考えています。「自分がより多くの難治性疼痛患者を痛みから救い、幸せを与えられるか」、上級コース修了を機に真の遠絡療法の治療を開始しなければならないと考えています。現在は、一人で診断し治療していると時間がいくらあっても足らず、待ち時間が長くなって申し訳ないという思いで一杯です。今後はチーム医療として行える環境を整えたいと考えています。

ACLS などでも、チームリーダーがスタッフに指示を与え一人の患者を救います。同様に、一人の患者の痛みをなくすためにチームで治療しなければならないと考えています。患者は増えてきても、マンパワーが自分一人では先は見えています。そうでなければ自分の体がつぶれるか、十分なサービスができなくて病院離れが起るかでしょう。自分が所属する施設には、PT、マッサージ師などが複数います。福岡での消痛基礎セミナーを紹介したところ、数人が興味を持っているようです。身近なところから少しずつ「遠絡療法」という最先端医療を発展させていきたいと考えています。